

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

名古屋 ちくさ

題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 谷口 優
 幹事 竹内 克豊
 広報・会報委員長 池 森 由 幸

No.4

奉仕を通じて平和を

Peace Through Service

2012~2013年度 RI会長 田中 作次

今日の例会

第1418回 平成24年7月31日(火)

友愛の日

先週の例会

第1417回 平成24年7月24日(火)晴

卓話“株式市場の見直し” 会員 近藤 和幸 君

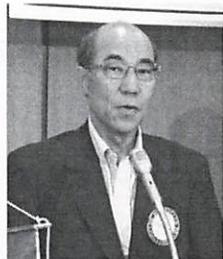
◆奉仕の理想

◆四つのテスト

◆出席報告

会員	39 (34) 名	出席	30名
出席率	88.24%		
前々回	7/10 (修正出席率)	100%	

◆大口30周年実行委員長報告



本年度、前半のメイン事業と致しまして、私共の千種ロータリークラブ創立30周年記念祝賀会を、10月12日(金)ここ、名古屋東急ホテルにて午後4時から開催させていただきます。

大体の概略につきましては6月12日の例会時にお話させていただきましたので御存知と思

いますが、先般の理事会で報告承認を得ましたので、ざつと概略を説明させていただきます。

テーマが「東日本大震災からの復興を祈って」ということで、記念講演を陸前高田 RC の幹事 佐々木 松男さんに1時間程お願いする事になっております。

講演内容はまだ、未定ではありますが、震災をうけてから復興に至るまでのいろいろなお話が聴けるものと思っております。

顕彰表彰ですが、30周年ということで30年在籍された方々を表彰させて頂きたいと思っております。

招待者は、東名古屋分区、西名古屋分区の会長、幹事をはじめ、ガバナーの皆様、創立した時の特別代表他、色々お世話になりました方々のご子息、本年度の千田ガバナーの方針でもある他分区との交流ということで、当クラブは東海 RC さんと交流することになっておりますので、東海 RC の会長幹事も招待致します。

晩餐におきましては、金子みすゞの詩の朗読、おおはたれいさんに朗読、丸山晶子さんにピアノ演奏をして頂きます。

記念事業といたしましては、100万円程度、陸前高田 RC を通して、なにか目に見えるかたちで紹介して戴き寄付するという事で決定しております。

記念品につきましては、やはり東北ということで南部鉄器の小箱を用意させて頂く事が決定致しました。

参加費においては、会員の方には1万円、家族の方々には5千円をご負担頂きたいと思っております。

タイムスケジュールとしては8月に招待状を送る9月10日締という事で進めたいと思っております。

10周年、20周年と恒例となっておりますが、今回も記念誌を発行したいと思っております。30周年の記念誌には、21年から30年までの現在在籍されておられます会長、幹事の座談会を考えております。

当日、招待者出席者は140名位になる予定です。本日のウィークリーに実行委員会組織表を掲載いたしましたので、よろしくお願い致します。

また、当日 DVD などでクラブを紹介できたらいいと思っております。今まで色々寄付をしてきましたが、寄付をしてきたものが、現在どうなっているのか追跡調査もして頂いております。うまくまとめればご紹介したいと思っております。

30周年、是非とも全会員、ご夫人の方々の出席をお待ち致しております。宜しくお願い致します。

竹内幹事報告

- 1) 先週お渡し致しましたクラブ計画書に訂正箇所がございますので、本日配布致しましたシールにて訂正お願い致します。またポケット名簿4冊ほど印刷のずれがあり交換させていただきますのでお申出下さい。

谷口会長挨拶

7月20日(金)に地区の会員増強委員会が名鉄グランドホテルで開催されました。その際の報告で2011年~2012年の松前バスターガバナーは、年度内に会員数を5000名にする張り切っておられましたが、本年6月末で、会員数は4804名であったこと、その人数は2011年7月の当初人数4809名から、5名減であったということでした。またこの1年間の会員の出入りですが、入会者は355名、退会者は360名であったとのことです。

講演者として、お隣の静岡県浜松にあるパワー浜松ロータリークラブの直前会長である坂井光蔵さんが講演をされました。この方は会長の年度にクラブ会員86名を倍増するとの計画を出されましたが、最終的には20数名の会員を入会された

ということでした。お話しの内容は、会員を増やす、特別のプランなどはありません。地道な努力が大切です。まずロータリーに勧誘する場合、どのようにロータリーを説明されますか。その説明を聞いて納得して入会して頂くのが大切ではないでしょうか。そうするとロータリーがどのようなものであるか、会員が理解していることが必要ですねというのが始まりであり、結論でもありました。勧誘する人にロータリーは親睦団体です、あるいは奉仕団体ですと話しても、それに共感して入会してくれる人はいるのでしょうか？ そんな団体は世間には五万とありますね。100年以上続いている組織である以上何かがあるはず。入会される方の典型は、先輩に頼まれて入った、先輩から入ってからクラブ内、あるいは地区内でロータリーを学んでゆけばよいと言われて入会したというものです。入会しても学ばずに退会されて行く方が多く見られます。ロータリーとは、「要約すると、ロータリーは職業あるいは事業を基本とし、その活動での倫理水準を高め、各自の業務を尊重し、その認識を深める活動であり、有益な事業の基礎を育成する組織である。その育成において各自が奉仕活動に努力する組織でもあります。奉仕のやり方は千差万別です。」と言っているのではないかと受けとめられるお話でした。この内容はまさに「ロータリーの綱領」に定められているものです。

ロータリーの綱領が日常の業務において発揮されているかの視点が4つのテストです。ではこれについてお話します。

職業奉仕と4つのテスト

あるロータリアンの語録によると、この言葉は「ハーバード・テイラー」が創案した言葉とされています。ロータリーには1943年に採用されたものです。100カ国語以上に翻訳されています。テラーは1931年に破産に瀕した「クラブ・アルミニウム社」の再建を託されます。この危機を従業員一丸となって打開するには、従業員全員が簡単に憶えられ、行動の際に応用できる道徳的な指標が必要であると気づき、思い浮かんだ言葉を書きとめ、それをスローガンとして纏めたのが、「4つのテスト」であると言われていました。従ってこの4つのテストは純然たる事業・経営上の指針であることに留意すべきです。この4つのテストの使用は「事業上の取引に限定すると共に、邦訳や解釈も厳密にする必要があります。」とされています。原文は「four-way test」となっており、「four-way tests」と複数形になっていないことです。すなわち4通りの基準を一つずつクリアすればよいのではなく、四つまとめたものを一つの基準として、そのすべてをクリアしなければならないことを意味します。

1. 「Is it truth? [真実かどうか?]

商取引において、商品の品質、納期、契約条件などが、偽りがないかどうか、非常に重要な基準です。真実と言うのは評価です。人の心を通した評価です。ここでの「truth」は、評価を伴わない「事実」と捉えるべきです。つまり事実があったか否かと言う二者択一で捉えるべきです。「嘘偽りがない事実かどうか」ということで用いるべきです。

2. 「Is it fair to all concerned? [みんなに公平か]

この訳にも問題があります。商取引で用いられてきたものから、「fair」とは、「公平」ではなく「公正」と訳すべきではないのでしょうか？ 公平とは、「ある物を、平等に分けること」を意味し、その物の出所が何であるかは問いませんが、「公正」とは、物が不正 (unfair) な出所のものでないことを意味します。次に「all concerned」ですが、「concerned」は「関係する人」を意味しますが、日本語訳は「all」のみを訳して「concerned」を省略しています。これは正しい訳とは言えません。本テストは商取引の基準です。とすると原文に忠実な訳は「すべての取引先に対して公正かどうか」と言う意味が正しいのではないのでしょうか？

3. 「Will it goodwill and better friendship」 「好意と友情を深めるか]

「goodwill」は、単なる好意、善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すとともに、「店の暖簾や取引先」を表すとされています。つまりその商取引が店の信用を高めると同時により良い人間関係を築き上げ、取引を増やすかを問うものです。訳としては「信用を高め、取引を増やすかどうか」と

訳す方が原文に忠実な訳ではないのでしょうか？

4. 「Will it be beneficial to all concerned」 「みんなのためになるかどうか]

「Benefit」は「儲け」を意味します。商取引において利潤を追求することは当然のことです。その商取引において売り手も買い手も適正な利潤を得るかどうかが重要です。従って原文に忠実な訳としては「すべての取引先に利益をもたらすかどうか」というのが適切であるリ原文に忠実である。以上のような意見が表明されています。

ロータリアンは職業を代表してロータリークラブに所属しています。もっとも大きな関心事は、事業に起こる問題といえます。現実の社会を動かしているのは、大中小の企業です。その企業が適正公正な活動を行うことが、適正な社会の発展を促す源泉であることは否めない事実ではないでしょうか (corporate governance 「企業統治」が言われているのも、その公正を維持するためです)。そのことを考えると、この4つのテストを商取引に限定する宣言であると位置づけたととしても、その存在意義が薄れるものではないと考えられます。

◆講演 “株式市場の見直し”

会員 近藤和幸君



多治見 RC を含めると今回で4回目の卓話になりますが、何度経験しても緊張するものです。あたたかく見守ってください。

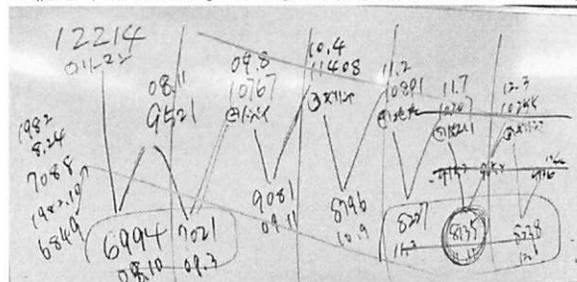
153社/1677社、1151社/1677社 東証1部上場企業のうち約1割がこの環境下で最高益を更新しております。

反面7割にあたる会社が純資産 (解散価値) を下回っております。当社も含め優良株が大きくPBR1倍を割り込んでいく状況です。

株価の大底は半値、八掛け、二割引と言われますが、リーマンショック以降その水準を大きく下回る状態が続いております。リーマンショックからの5年間は、映画にもなったブラックスワン (ありえないこと) といわれるよう毎年何かが起こっています。

100年に一度の金融危機、1000年に一度の天災、円高、電力不足、ユーロ危機と数えればきりがありません。この5年間の株価の動きにはいろいろなヒントが隠されています。

千種ロータリーが発足した1982年8月24日は7088円ですが、(1982年10月に6849円で大底、そこからバブル経済へ)26年前までの水準にまでリーマンショックでは値を下げました。その後の動きは写真の通りです。



為替についてもトレンドを抜けたような感じがします。株式市場の二大悪材料は円高とデフレです。

2月14日のバレンタイン緩和での日銀のデフレ脱却の強い姿勢を考えると8500円以下の今の水準は魅力的にうつります。

☞ニコボックスは次回掲載させて頂きます